

2006.09.20

【第9号】

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1. 山谷塾いよいよ開講
2. 山谷塾塾生大募集！
3. シンポジウムのお誘い
4. 三晃日記
5. 今月のボランティア募集

1.山谷塾に参加して

9月9日に山谷塾が始まりました。

第一回の講演は、水田恵塾長による、「山谷」とは何か、その歴史について、でした。大まかな内容は、山谷の歴史で過去と現在、そこからホームレス問題などなど。私としましては、山谷地域の仕事に携わっていますが、この講義によって山谷に対する知識や理解度がより一層深まりました。その場のみならず、好奇心や興味が余韻の様に湧いてきます。日本における、虚栄、そこから生じる虚構なども垣間見えました。

参加されたボランティアの皆さんにも評判は良く、「勉強になった」、「ためになった」と言う方もおられました。確かに、ボランティアの皆さんの受講姿勢は真剣そのもの。目の色が違いました。素晴らしいですね。

また、山谷塾の特徴として、「質問タイム」も用意されていました。一般の講演などでも質問などはありますが、山谷塾の特筆しているポイントは、質問に対して、講師の方がしっかりと丁寧に答えて下さると言う点にあると思います。更に特徴としては、少人数で行なっていることもあり、講師と受講生の距離がとて近いう事です。前述の「質問タイム」についても、この距離の近さがフルに生きており、そこが魅力、と感じました。

第二回山谷塾が9月16日に行なわれました。今回は前回と打って変わって、自転車の修理講習を行ないました。

講師は敬老室の利用者さんたちでした。集まった塾生さんは、学生、社会人、地域にお住まいの方々など様々！

講習は、基礎的なパンク修理に始まり、難易度の高い自転車の後輪を取り替える事も習う事ができました。

パンク修理はほとんどの塾生さんが修得した事と思います。タイヤ交換はとて難易度が高く、塾生さんから歓声があがるほどでした。最近では、新しくタイヤを取り替えたり、ペダルを取り替えたりする事も少なく、故障したら新しいものを買う方も増えているそうですが、今回の講習は、修理すれば何年も乗れるのだ、と言う事も解りました。物に溢れた世代の名残とは言え、そのままの事は決して正解でなく、自転車を通して、物の大切さも学ぶ事ができました。

私は、何気なく通っていた山谷の街にも、色々な技術者が眠っておられるのだな、と思い、改めて山谷の面白さ、そこに住まう人々の多様さを認識させられました。

講師と塾生の関係もまた、面白く、師匠と弟子と言った表現がピッタリでした。「その道具とって」「空気入れて」などなど、絶妙な掛け合いが見られる場面も多々。笑顔も多くあり、穏やかな雰囲気で行なわれました。

塾生さんの多様さも、自転車修理講習もさることながら、そういった方たちとコミュニケーションがとれた事も、一つの大きな成果であったと思います。これからも10月28日まで続く、魅力あふれる山谷塾へのご参加をよろしく願います。

(ふるさとの会敬老室及びボランティアサークルふるさと担当 尾竹唱木)

2.ふるさとの会ボランティア講座『山谷塾』

ーふるさとの会の活動は、多くのボランティアさんに支えられていますー

「ふるさとの会のボランティアに関わりたい。けれど山谷のこと、ホームレスのこと、そして実際自分に何が出来るのか、分からない、。」そんな不安を抱え、今一歩足を踏み出せないことってありますよね。そこで、ふるさとの会ではこの度“ボランティア連続講座”を開催いたします。

その名も「山谷塾」！！

山谷の事情に精通し、あなたの疑問に答えてくれる名だたる講師陣。自転車修理など直ぐに役立つ支援技術を学べる実技講習。ボランティアと実習生が共に学び企画するボランティアプログラム。塾生みんなで作り上げる講座です。ぜひご参加ください。

第一回 9/9 18:00～20:00 ■「山谷」とは何か。その歴史について(講師 水田恵塾長)
ふるさとの会の支援の舞台である「山谷」の過去(寄せ場)と現在(ホームレス)。

第二回 9/16 15:30～18:00 ■ふるさと「匠」チーム 自転車修理講習
自転車修理の基礎を修得。ボランティアと実習生が共同で無料修理派遣支援など企画。

第三回 9/30 18:00～20:00 ■隅田川に暮らすホームレス(講師 東京学芸大学 鈴木亘助教授)
墨田区ホームレス実態調査に携わった講師より、ホームレス支援に必要なとされる施策を学

ぶ。

- 第四回 10/7 15:30～18:00 ■ ふるさと「匠」チーム 大工修理講習
椅子やテーブル作りなど、大工仕事を実習。販売や簡単な修理メニューを企画。
- 第五回 10/14 18:00～20:00 ■ 「山谷」でのケースワーク(講師 東京女学館 麦倉哲助教授)
「山谷」で支援の現場を見つめ自ら支援を担ってきた講師より、ケースワークを学ぶ。
- 第六回 10/21 18:00～20:00 ■ 「山谷」とアルコールの切っても切れない関係(講師 山谷マック)
山谷とアルコールの深い結びつき。アルコール依存者に対する支援を学ぶ。
- 第七回 10/28 15:00～18:00 ■ アウトリーチ実践－
隅田川で暮らす路上生活者。これまで学んだことを踏まえ、実際にテントに出向く。

第一期塾生を大募集！！参加費500円(資料代として)

担当:尾竹(03-3801-0377)

主催:NPO法人自立支援センターふるさとの会・ボランティアサークルふるさとの会

3.ふるさとの会シンポジウムのお誘い

包括的地域生活支援を考えるためのシンポジウム
『ホームレスの自立支援・就労支援とは』

10月29日(日)午後1時半～4時半(開場は1時)

場所:財団法人東京しごと財団 講堂(裏面地図参照) 資料代:1000円

NPOふるさとの会主催のシンポジウム。今年は、今ホームレス支援において一番ホットな話題、
『就労』という視点から討論いただきます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

労働に関する問題がクローズアップされています。「働きたいけど働けない人」、「失業者」にもカウントされない人、ニート、引きこもり、パート労働者、母子父子家庭、生活保護基準以下の収入で生活する「ワーキングプア」。

ホームレス問題も「就労」の問題であると言えます。しかしながら、それは単に仕事があれば解決できる問題ではありません。「ホームレス」状態にあるということは社会との関係を絶つことであり、その生活が長期化するほど新しく仕事に就いたり地域生活を再開したりすることがより困難となります。いざ仕事に就いても継続していくことは容易ではありません。生活習慣、人間関係、健康、債務問題、そして偏見。

こうした状況から脱却するためにはどのような社会的支援が必要なのでしょう。ホームレスの就労支援活動をする中で我々は一つの答えにたどりつきました。それは、困難な状況から再び地域社会で働いて安心できる地域生活を送るためには、様々な「ケア」が必要であるということです。

ここ数年間、東京では行政、民間企業、NPO、研究者など様々なセクターが連携しながらホームレスの自立支援事業を推進してきました。ホームレス自立支援法が施行されてから5年間に経過した現在、我々はこれまでの活動を見直すとともに、より広い視野から我々の活動の意義を捉えなおす段階にきていると考えています。

基調講演 福原 宏幸 氏 大阪市立大学大学院 経済学研究科 教授

シンポジウム ホームレスの自立支援・就労支援とは

パネリスト 富田 一幸 氏(株式会社ナイス 代表取締役)

布川 日佐史 氏(静岡大学人文学部教授)

福原 宏幸 氏(大阪市立大学大学院 経済学研究科 教授)

水田 恵(特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 代表)

コーディネータ 山岡 義典 氏(法政大学現代福祉学部教授、日本NPOセンター副代表理事)

4.三晃日記

生活相談に必要なこと

この連載ではこれまで、自立支援ホーム「ふるさとホテル三晃」の土台部分である生活支援について何度か取り上げてきた。具体的には、栄養士作成の献立による「三食食事提供」のこと、「24時間常駐職員による見守り」の中から気づいた「便の話」といったことだ。今回は、やはり生活支援のひとつである「生活相談」にまつわる話をしたいと思う。

50代後半のある利用者さんは、30年前に遭った交通事故の後遺症で記憶障害がある。「やんちゃだった

頃」には覚醒剤常習の時期もあった。そんな彼の今の望みは「もう一度働くこと」だ。

彼の就労への強い意欲を知ったきっかけは一枚の白紙の履歴書。聞けば職安へ行き仕事を探している、いくつかの仕事を紹介されることになった、けれども自分で履歴書を書けないから手伝ってほしいと言うのだ。

担当ケースワーカーや主治医(精神科)との意見交換で「現状では就労は無理」との結論。が、目の前のこの人は「とにかく履歴書を完成させたい。面接したい」の一点張り。だからなのか職安で選んできた職種は多種多様で、それゆえ「あせり」をも感じさせた。

彼の思うようにさせたい気持ちと、もう少し腰をすえて就労までのプロセスを踏む方がいいのではないかと、この気持ちで悩み、担当ケースワーカーと相談し2本立ての方法を採ってみた。「就職活動は続ける」一方で、「今できることを探る」というものだ。

ふたりで履歴書づくりを始めた。それによりこれまでの彼の生きてきた道のりを知ることになる。そこには新しい発見があった。数年間にわたり木製和楽器の製造に携わり、木工を得意にしていたということだ。「これは得意なんですよ。今でもやれますよ」。訳あって和楽器・木工の世界を去り、その後は職を転々とし、いわゆる堅気の世界から離れたこともあった。が、和楽器の話になると、確かにその目は輝き言葉は溢れる。

「やんちゃな頃」のことも含めて、そういうふうに過去をひとつずつ振り返る。それを糸口に彼との会話が膨らんでいく。やがてお互いを知っていく。そんな作業を数日間にあたりわたり続けていたある日、館内の木製ベンチが壊れた。じつに見事に直してくれた。あるいは。前回紹介した「隅田川花火大会観覧会」では先頭に立って机、イスなどの搬出搬入をしてくれた。その段取りのよさはやはり「職人仕事」に従事していたそれだった。いつしか僕のなかで、彼へのリスペクトは膨らんでいった。

彼の職安を通じた就職活動は敗戦が続いた。立ちふさがる現実の厳しさにさらされ、時に弱気な言葉を吐き出すが、意欲はなお衰えてはいない。

今回紹介した「生活相談」はほんの一例。78人もの利用者がいるのだから様々な相談が持ち込まれる。そこで忘れてはならないことは「目の前のひとへの敬意」ではないか。当たり前なことだと人は言うかもしれないが、そのことを肝に命じている。そしてそのために利用者さんとの雑談を日頃から大切にしているつもりだ。

(ふるさとホテル三晃 田辺 登)

今回の記事は、ご本人の了解を得て掲載しました。

5. 今月のボランティア募集

ふるさとの会地域支援事業部では、毎月一回、地域支援センターやリビング、宿泊所の利用者の方々とのお出かけプログラムを実施しています。

大勢でのお出かけを参加者全員の方に楽しんでいただくには、「利用者さん同士の支えあいもさることながら、たくさんの方々の協力も、また、必要となります。今月は29日(金)に葛西臨海水族館ツアーを予定しております。

是非、お出かけ付き添い&見守りボランティアとして、一緒に行事を支えていただけませんか? 興味がある、月一回くらいなら時間を作れるという方は、どうぞお気軽に下記までお問い合わせ下さい。お電話お待ちしております。あわせて『山谷塾』へのご参加もお気軽にどうぞ!

地域支援センター「すみだ」 03-5819-3254 フルキ

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950